Coca-Cola
BOTTLERS JAPAN INC.

Paint it RED!
未来を塗りかえろ。

コカ・コーラシステムが取り組むSDGs

～容器の2030年ビジョンについて～

コカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）
経営改革本部　CSV推進部

Contents

◆ 日本におけるコカ・コーラビジネスとコカ・コーラ ボトラーズジャパン㈱について

◆ コカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワーク

◆ 日本における私たちコカ・コーラシステムの容器戦略について

日本のコカ・コーラシステム

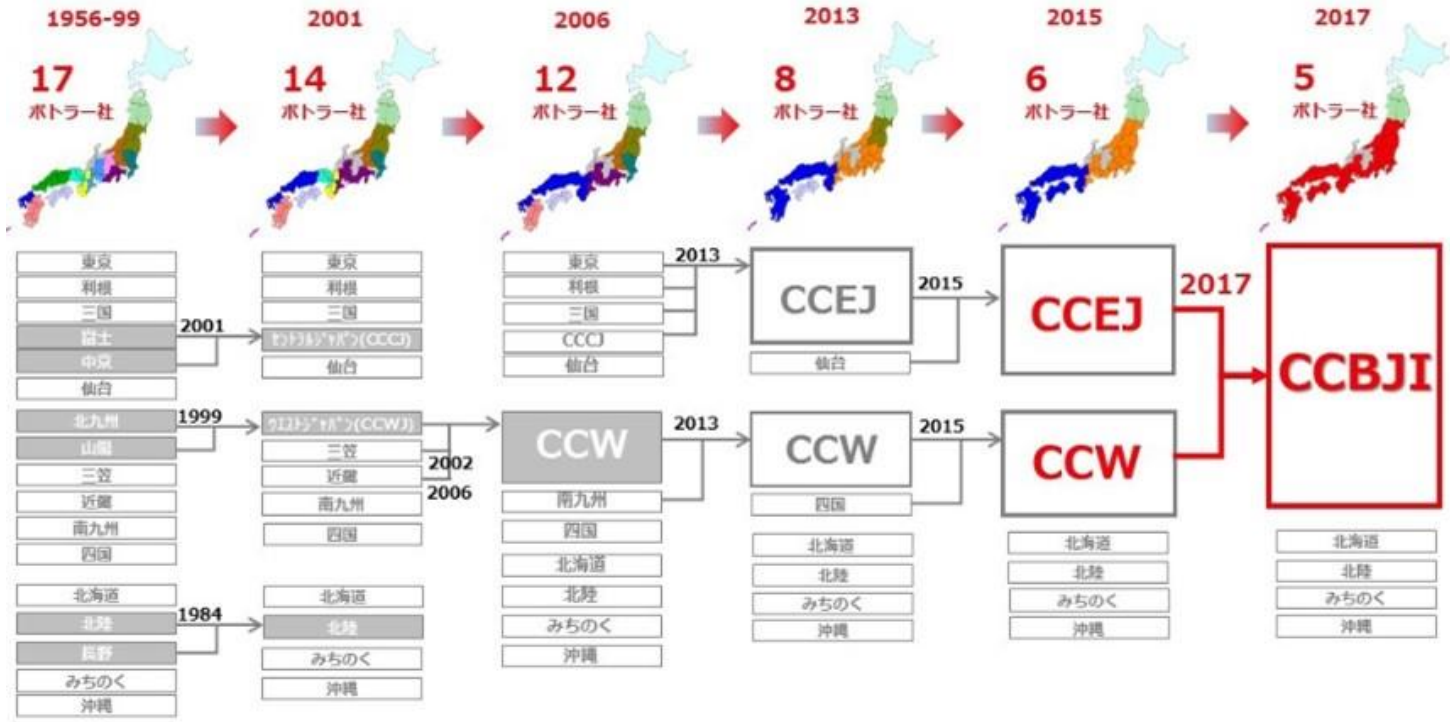
日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー社・関連会社で構成されています。

全国のコカ・コーラシステムの従業員数は約2万人、工場は22ヵ所（守山工場を含む）あります。

● 日本のボトリングパートナー　５社

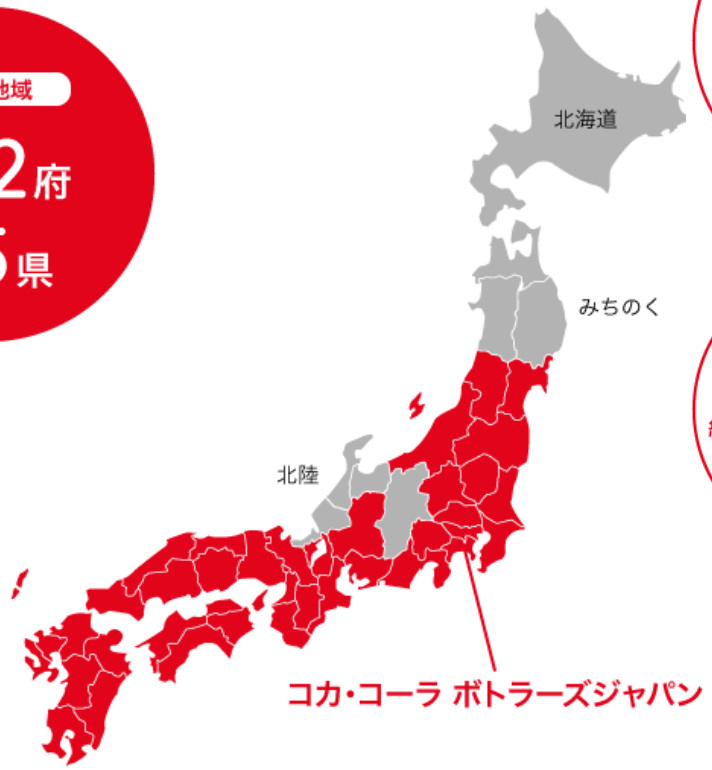
北海道コカ・コーラボトリング(株)　みちのくコカ・コーラボトリング(株)　コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)　北陸コカ・コーラボトリング(株)　沖縄コカ・コーラボトリング(株)

● 統合を繰り返し、2001年には14社あったボトラーが現在は5社に



コカ・コーラ ボトラーズジャパン㈱について

営業地域
1都2府35県



販売数量
日本のコカ・コーラシステムの
約90%

エリア内人口
約1億1,200万人
(5,100万世帯)

年間売上収益
約7,920億円
※2020年実績

年間販売数量
約5億ケース
※2020年実績

ブランド数
50
ブランド以上

製品数
600
種類以上

取扱店舗
25万軒
※2020年末時点

自動販売機
約70万台
※2020年末時点

車両台数
約14,500台
※2020年末時点

製造拠点数
17工場

営業拠点数
(ディストリビューションセンター含む)
約330箇所
※2020年末時点

社員数
(臨時雇用含まず)
約16,000人
※2020年末時点

- 九州から南東北までの1都2府35県を管轄
- 2017年に東西の2ボトラーが統合し、アジア最大、世界でも有数の規模のボトラーに

- 全国で17の工場が稼働。従業員数は約16,000人

日本のコカ・コーラシステムのサスティナビリティーフレームワーク

2020年、
コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、
日本コカ・コーラとサスティナビリティーの課題抽出と優先順位の特定を行いました。

日本のコカ・コーラシステムとして、
今後10年間変わらないと想定される「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の３つのプラットフォーム（重点分野）と直近に取り組むべき９つの重点課題（マテリアリティ）を特定しました。

各領域におけるSDGsとの関わりを検証し、SDGsの達成も目指すことで、社会課題の解決に貢献します。

■ ３つのプラットフォーム（重点分野）と９つの重点課題（マテリアリティ）

３つのプラットフォーム（重点分野）

重点課題（マテリアリティ）	多様性の尊重	地域社会	資源
優先事項	ジェンダー 年齢／世代	● 全国規模で行う2つのプラットフォーム（多様性の尊重、資源）で影響力を発揮 ● 持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み	容器／PET 水
重点事項	障がい者支援 LGBTQ		温室効果ガス排出量 再生可能エネルギー
関連するSDGs	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう

日本における私たちコカ・コーラシステムの容器戦略について

海洋プラスチックごみ問題でクローズアップされたPETボトル。原因はどこにあるのでしょうか？

2015年に拡散された、プラスチックストローが鼻にささったウミガメを救助する動画をきっかけに、海洋プラスチックごみ問題が世界的な問題となり、PETボトルは、この問題でクローズアップされて扱われています。

✓ 2015年に、プラスチックストローが鼻にささったウミガメを救助する動画が拡散されました。

PETボトルを扱う企業としてPETボトル流出の原因を究明する必要があります。

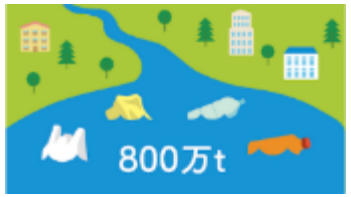
私たち日本のコカ･コーラシステムがこの問題に対して、本当にとるべき、効果的なアクションは何でしょうか？

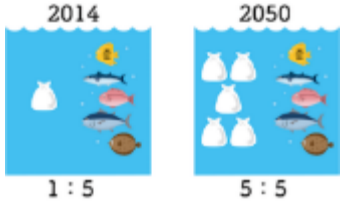
● プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題に

✓ 毎年**800万トン**※に及ぶプラスチックごみが海洋に流出しています。

✓ 2050年には**海のプラスチックごみが魚の量を超える**※と試算されています。

✓ 2019年**G20でも大きな議題に**





※Coca-Cola world without waste Fact Book, P7／World Economic Forum ELLEN MACARTHUR FOUNDATION

● クローズアップされたPETボトルとコカ･コーラ

✓ 6大陸･42ヵ国、239回実施された清掃活動で最も多くプラスチックごみが発見された企業ブランドがコカ･コーラであることを発表。

この問題に対してとるべきアクションはどんなことでしょうか？

日常生活に浸透したPETボトル
このように消費者に受け入れられた理由は？

(1) 取り扱いやすく便利
軽くて持ち運びやすい。
開栓しても再栓性（リキャップ性）があります。
加工しやすく、形、サイズも豊富です。

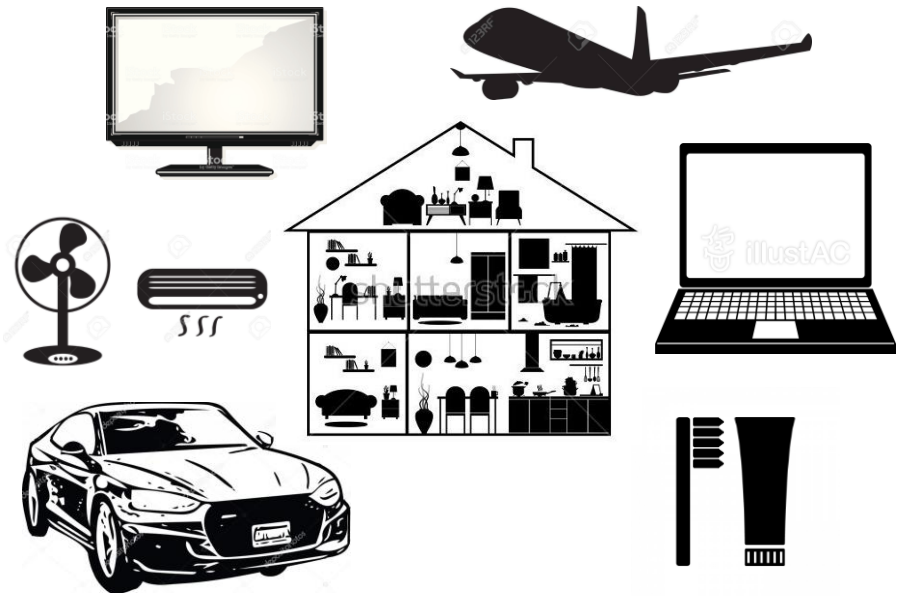
(2) 十分な強度
衝撃が加わっても割れにくい。

(3) 衛生上も安全
食品衛生法で定めた規格にクリアしています。

(4) 美しい外観
透明度が高くて光沢があり、内容量が一目でわかる利点も。

(5) リサイクルが可能
分別収集されたPETボトルは再生工場でリサイクルされます。

● プラスチックは現在の私たちの生活には欠かせない材料



● PETボトルは「コカ・コーラ」を1982年に発売以降、お客さまの様々なニーズに対応しながら幅広く親しまれてます

1982年　　現在

プラスチック製品に占めるPETボトルの割合

日本のプラスチック製品におけるPETボトルの割合は？

日本のプラスチック使用量は9,920千トン(2018年）

そのうち、

PETボトルは626千トンの６％、

PETボトル以外のプラ容器は3,442千トンの35%、

その他プラスチック製品が5,852千トンの59%。

※一般社団法人プラスチック循環利用協会及びPETボトルリサイクル推進協議会(2019)のデータから日本コカ・コーラ社試算

日本国内のPETボトルに関する事実

日本のPETボトルの回収率は、リサイクル目的で回収された、市町村分別回収と事業系ボトル回収量を合わせると93.0% ※1に達します。

河川や海などにごみとして流出されているのは、残りの7%未満の、一部と考えられます。

国内の指定PETボトル販売量に対しての

PETボトル回収率

約93.0%

※1 PETボトルリサイクル推進協議会ホームページ統計データより
リサイクルを目的に回収されたPETボトルの割合

日本国内の高いリサイクル率は容器包装リサイクル法があるため

日本のPETボトルのリサイクル率は、85.8%[※1]で米国や欧州に比べ、非常に高い水準を誇っています。日本のリサイクル率が高い理由は、1995年に制定された容器包装リサイクル法（容リ法）に則ったリサイクルの仕組みがあるためです。

「消費者」には排出抑制と分別排出、

「市町村」には分別収集、

「事業者」には再商品化と役割分担を明確にして取り組んだ結果です。

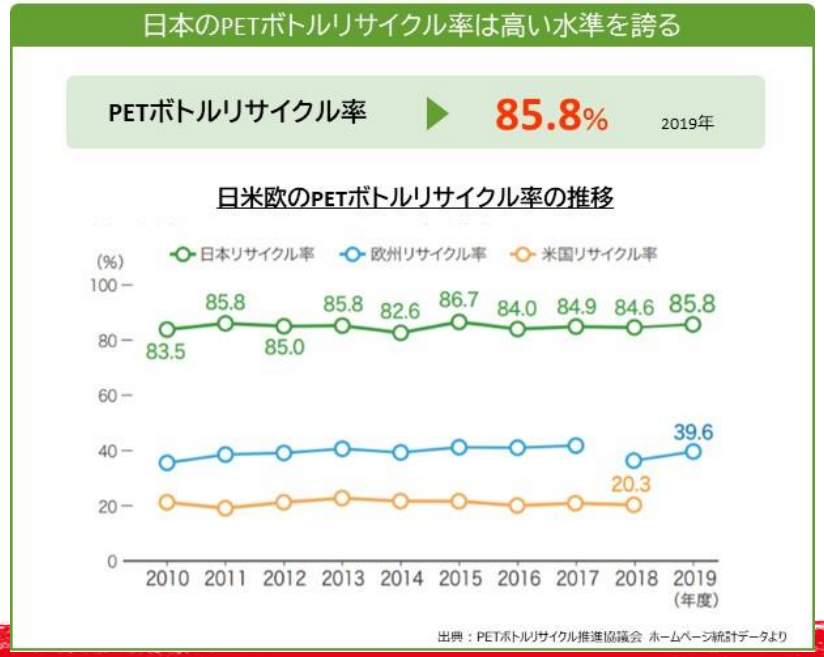
事業者は3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組み継続して行っています。

※1 PETボトルリサイクル推進協議会ホームページ統計データより

● 容リ法では3者それぞれの役割分担が明確化されています

事業者は容器包装製造事業者と容器包装利用事業者(中味製造・小売)のことで、特定事業者といいます。費用負担をして再商品化事業者に委託します。

※環境省　３R容器包装リサイクル法 ホームページより



日本のコカ・コーラシステム　容器の2030年ビジョン

「設計」「回収」「パートナー」3つの柱での取り組みを推進

	2018 実績	2019 実績	2020 実績	2021 実績	2022 目標	2025 目標	2030 目標
設計 ボトルtoボトル サスティナブル素材 PET樹脂の使用量	約17% 「ボトルtoボトル」の割合	約21% 「ボトルtoボトル」の割合	約28% 「ボトルtoボトル」の割合 「い・ろ・は・す 天然水 100%リサイクルペットボトル」発売 「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」発売		50%以上 「ボトルtoボトル」の割合	すべての製品のPETボトルに、リサイクルPET樹脂または植物性PET樹脂を使用	植物由来PET樹脂10% 90% 「ボトルtoボトル」の割合 100% 新規化石燃料ゼロへ すべてのPETボトルを、リサイクルPET樹脂または植物性PET樹脂に切り替え 35%削減 製品1本あたりのPET樹脂の使用量（2004年比）
回収 回収	容器を適切に回収	東京都と清涼飲料業界でコンソーシアム設立（2020年） 東京都東大和市とのPETボトル回収事業（2020年）		リサイクルしてね 「リサイクルしてね」ロゴをすべてのリサイクル可能な製品のラベルなどに導入（2021年）			販売した量 / 回収した量 国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収
パートナー さまざまな取り組み	完全循環型PETボトルリサイクルを実現「一（はじめ）緑茶 一日一本」（2019年） 「一（はじめ）緑茶」シリーズへの拡大（2020年）	日本財団との共同調査（2019年）	USJとのリサイクル啓発イベント（2020年）				さまざまなパートナーと連携し、より着実な容器回収・リサイクルスキームを構築・維持

設計　ボトルtoボトル

- PETボトルは、軽量で持ち運びやすく、再栓可能です。
- 夏の熱中症対策には、いつでもどこでも衛生的に飲料を持ち運びができるPETボトルが最適です。

● PETボトルは優れた容器

PETボトルは利便性が高く衛生的。さらに再資源化が可能な
環境にやさしい容器です

- さらにリサイクルすれば資源になる点でも、環境負荷が低い、極めて優れた容器です。
- コカ･コーラ システムでは、使用済みのPETボトルを再びPETボトルへとリサイクルする「ボトル to ボトル」を推進しています。

設計　い・ろ・は・すに続き、コカ・コーラ、ジョージアも100%リサイクルペットボトルへ

2020年3月には「い・ろ・は・す 天然水」、2021年5月には「コカ・コーラ」と「ジョージア」にも100%リサイクルペットボトルを導入したことで、理想とする「廃棄物ゼロ社会」実現に向けて、大きく前進しました。

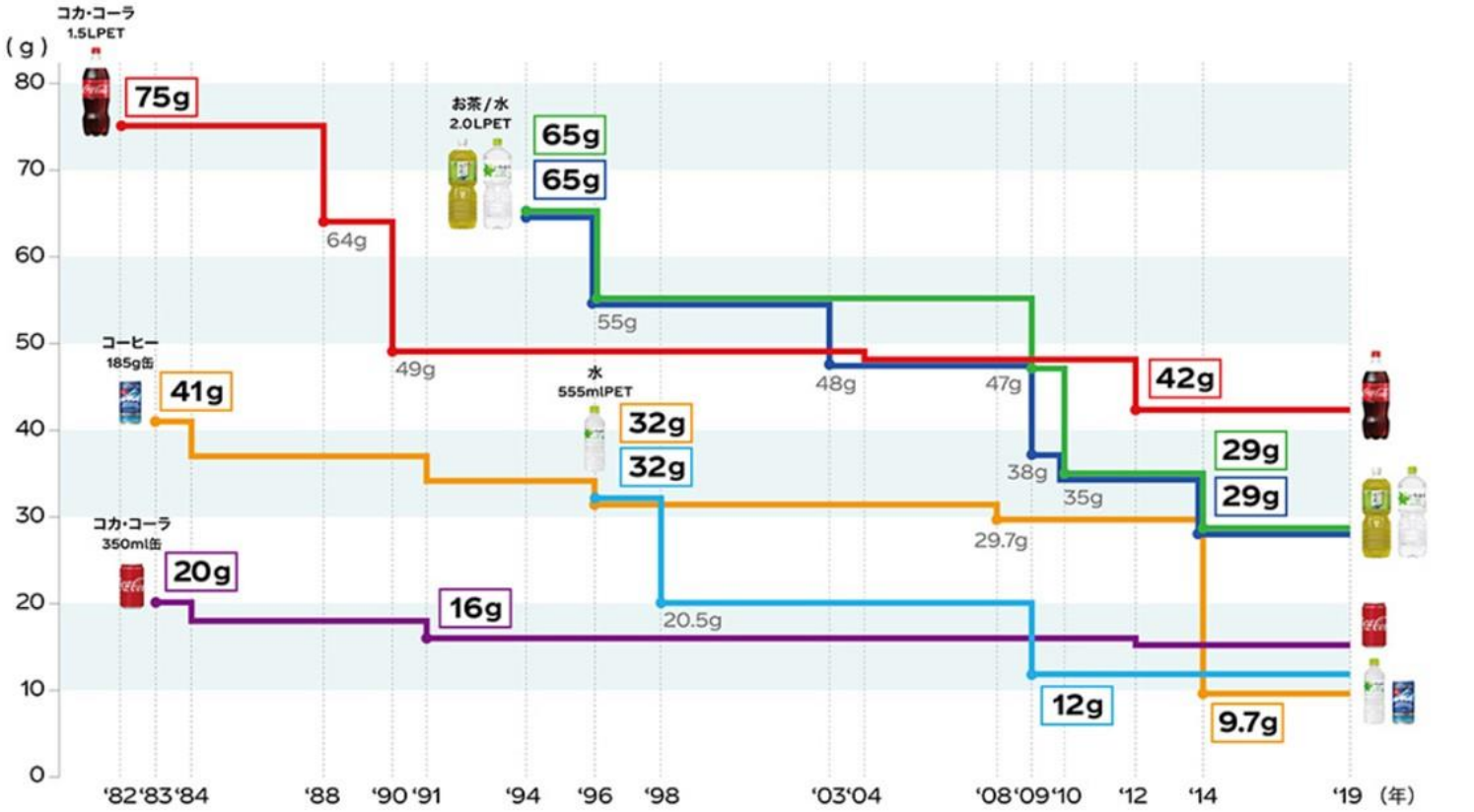
今後も、環境負荷軽減のための取り組みに、ますます注力していきます。

ラベルレス製品も好評発売中！

設計　容器軽量化

1970年代より有限資源の有効利用と、プラスチック使用量削減のため、製品の容器包装軽量化に取り組んでいます。

代表製品には、い・ろ・は・すの「ecoるボトルしぼる」や、つぶしやすさと注ぎやすさを両立した「ペコらくボトル」などの開発が挙げられます。



※2010年以前、水の容器は500ml ※缶重量は、缶胴と缶蓋の重量で算出

私たちは製品1本あたりのPET樹脂の使用量を2030年までに2004年比で35%削減を目指していきます。

ボトル to ボトル

CO2排出量や、石油由来原料から新たにつくられるプラスチック量の削減が可能に

CO2排出量

60% 1本当たり

*一般的なPETボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合

35,000トン

*対象製品合計・年間当たり。前年出荷実績に基づく当社試算

石油由来原料から新たにつくられるプラスチック量

30,000 トン

*対象製品合計・年間当たり。前年出荷実績に基づく当社試算

容器リサイクルにおける課題について

回収　質の高い“資源”としての容器確保に向けて

ボトルtoボトルを進める上で、資源として良質なPETボトルを回収することが重要になってきます。

現在多くのパートナーとの連携や実証実験を通じて更なる分別回収が出来るよう取り組んでいます。

東京と東大和市とのPETボトル回収事業も含めた

“地域活性化包括連携協定”

業界団体、カスタマーと進めた容器の分別回収の実証実験や

新たに展開した啓発ステッカー

パートナー　ステークホルダーとの協働

廃棄物ゼロ社会の実現を目指し、「パートナー」においては、政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通して、すでに極めて高い水準にある国内のPETボトルと缶の回収・リサイクル率のさらなる向上に貢献するべく、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組みます。

公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会
The Japan Containers and Packaging Recycling Association

全清飲

PETボトルリサイクル推進協議会
The Council for PET Bottle Recycling

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

- **全国9ヵ所で社員総勢約750名が参加し、清掃活動を実施**

仙台（宮城）、霞ケ浦（茨城）、釣ヶ崎海岸（千葉）、渋谷（東京）、矢田川（愛知）、中ノ島～天満橋（大阪）、宮島（広島）、屋島 浦生海岸（香川）、貝塚（福岡）

- **環境省主導の「プラスチック・スマート」フォーラムに日本コカ・コーラが飲料業界で唯一、その発足団体として選出されました。**

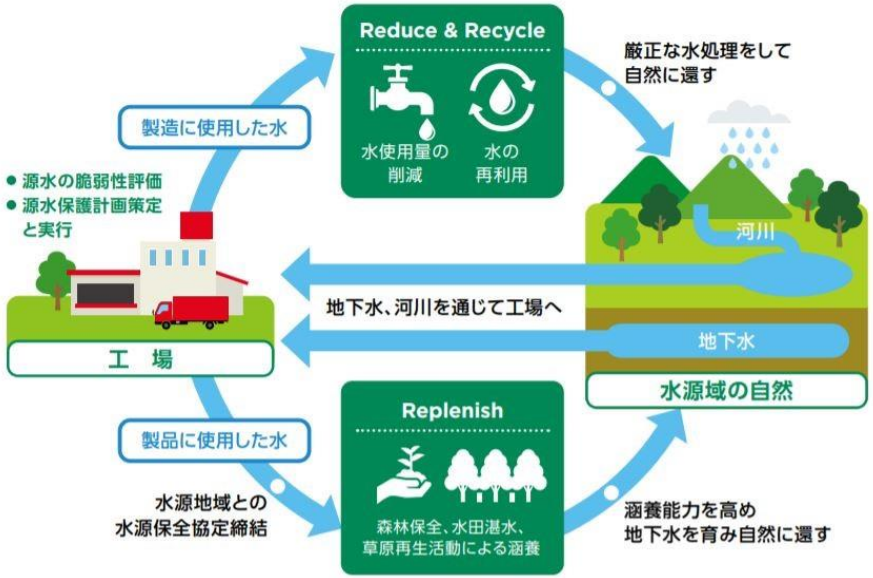
Plastics Smart

- **日本財団と４箇所で陸域から河川へ流出する廃棄物を調査**

私たちのとって大切な水資源について

もう一つ、我々のビジネスを支える重要な資源。それは・・・

水。すべての製品に水は不可欠です。



製造に使用した水 12,560,322m³ (前年比−5.7%)	水源涵養面積 約7,963ha (前年差+350ha)
製品に使用した水 3,883,092kℓ (前年比−4.8%)	水源涵養率 364% (前年比+13%)
製品1ℓを製造する際に使用した水 (WUR:Water Use Ratio) 3.23ℓ/ℓ (前年差−0.03ℓ/ℓ)	水源保全協定締結 16/17工場 (前年+1工場)

すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、価値を創造します

Thank You